

# 中国人女性と日本人女性の体型の比較

大阪信愛女学院短大 ○川端厚子

**目的** 中華人民共和国では、近年、人民服を脱いで自由な服装をしている人を多くみかけるようになってきた。アパレル産業も急速に発展し、服飾に関心が高まってきた。このような時期に、中国人民政府の招聘を受けて服飾講義をしに行く機会を与えられた。服飾講義をしに行く度に、衣料サイズを規格化するためにも中国人の人体計測をおこなない、人体を数值的、形態的に把握する努力を重ねてきた。ここでは、中国人女性と日本人女性の体型の比較をおこない、いくつかの知見を得ることができたので、まとめてみた。

**方法** 被験者は、中華人民共和国遼寧省大連市在河渠に在住する女性50人と大阪信愛女学院短期大学在学中の学生50人である。年齢は、19歳から23歳までであり、計測期間は、中国人女性は、1986年8月であり、日本人女性は、1986年6月である。計測方法は、工業技術院による日本人体格調査の計測方法に準拠しておこなった。計測器具は、マルケン人体測定器を使用した。人体の各部位を98項目にわたり計測したが、今回は、そのうち48項目をとりあげて統計的な処理をおこない考察を加えた。

**結果** 中国人女性は、日本人女性と比較して、長径項目では、身長、頸椎高、肩先点、腸骨棘高、肘関節高、股の高さ、膝蓋骨中点、座高などが高い。上肢長、下肢長も長い。身長に対して全頭高が短かいので、頭身指数が大きい。体幹部は、周径、横径、矢状径ともに日本人女性よりも優位であり、体重も優れている。頭長、頭幅、頭囲の計測値を分析した結果から日本人よりも小さい頭部の形態であることが認められた。関連する現代中国の女性は、一般に均整のとれたスラリとした体型であることを把握することができた。